

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100032		
法人名	有限会社 タスク		
事業所名	グループホーム かつを		
所在地	静岡県焼津市中根181		
自己評価作成日	平成26年10月21日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2295100032-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2295100032-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>『私たちのケア方針』を、自分達で作成し実行している。                  ①自分達(自分の家族)が入居したいと思う施設を自分達の手で創り上げる。                  ②常に利用者さんの思いを感じ、察し。(月1回モニタリングにてご本人の意向を確認)                  ③ご利用者さんが、日々安心・安全に過ごす事ができる環境整備・気付きの目を培う。                  ④ご利用者さん・職員が「生き生き元気に楽しく笑って過ごせる。」よう日々取り組む。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>かつをの理念「なじみの家」実現に向けた具体的な行動を「私たちのケア方針」として落とし込み、その実践も着実なことを事例から確認できました。方針作成から四年余を経て、今では職員の発言に理(ことわり)としてでてくるようになっていきます。変化のない利用者にも1年に一度はアセスメントをおこない、頻度の高さはきめ細かな観察と記録の継続に昇華しています。また、一つひとつの事故において「なにがいいのか」「わるいのか」「これから何をしたらいいのか」を職員全員で追求するなか、アクシデントがあっても個別ケアの学びとして素直に受け留める姿勢が生まれていて、「私たちのケア方針」がかつをのモノとなっています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社長より、入社時・面接時(年1回)に、設立の思い・理念について講話を受けている。理念に基づいた『ケア方針』に対して年2回自己評価を実施している。	かつをの理念「なじみの家」の実現に向け、職員で話し合った具体的な行動めやすを「私たちのケア方針」として掲げています。作成から四年余を経て、今では職員の発言に理(ことわり)としてでてるようになっていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での祭典・清掃活動(年3回)へ参加している。 秋の祭典は、当施設内駐車において町内で伝統伝承されている笛太鼓の演奏と御神輿・屋台の引き回しをしてくださり、町内・地住民の方々(子供さんを含む)と交流を深めている。当日は、事前にプレゼントを作成準備し、ご利用者さんが一人一人子供さん達に手渡ししている。	地域の祭りではお手洗い立ち寄り所としての役割を担っています。そのため笛太鼓の披露もあり、利用者が手の色が変わるほどに拍手をするので「此处にくるのが一番嬉しい」との声も挙がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居されている方のご家族に限らず、相談に応じている。又、地域・近隣の方々へ「介護の困りごとや認知症の方への介護に関する相談会等開催」のチラシ配布を行っている。福祉まつり(毎年10月)に参加し、介護相談も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。地域のお年寄りの方々の状況や、施設運営・サービス・個々の活動に関しご意見を頂き、より良いサービス向上・地域での貢献取組みに活かしている。	毎回公民館を借りての隔月開催が叶っています。町内会長が民生委員になったことでメンバーが継続されるというラッキーもあり、行政・地域包括支援センター・町内会長・民生委員のほか、法人代表も参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、焼津市長寿福祉課担当の方へ、随時報告・連絡し、困りごと等についてはより良い解決方法やアドバイスなど頂いている。	何につけても行政に相談するという揺るぎ無い考えをもって「こちらから出掛ける、会いに行くこと」が徹底されています。このようなアサーティブな動きから市職員からも積極的な意見をもらえています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしています。 マニュアルを設置し定期的に研修を実施し、正しく理解した上で「身体拘束0のケア」に取り組んでいる。 年2回の自己評価を実施し、日頃の支援方法を自ら振り返る機会を設けている。	繰り返しの自己評価や研修の成果がみられ、特にスピーチロックでは目に見えての変化があります。「ちょっと待って」に理由をつけることを奨励していて、「いま他の人がやっているから少し待っててくださいね」といった言葉掛けができる職員が育っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを設置し定期的な研修を実施し、正しく学ぶ機会を設けている。 施設内において見過ごす事がないよう、職員間で注意を払っています。 年2回自己評価にて自らのケア方法を振り返る機会も設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方が入居されています。 後見人の方と、支援について相談話し合いを行う機会(面会時)を月1回程度設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が責任を持ち、十分な理解・納得を得られるよう説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時にご家族に満足度調査を実施して頂き、結果・ご意見を集計取りまとめた物を職員全員で、共有し検討することで、今後の運営方法に反映させて頂いている。 年4回、行政より相談員の方が訪問され、ご利用者さんからの、ご意見ご要望を聞き取って下さり、後日行政からの文章結果をもとに、職員間にて検討し運営に反映している。	「初めての参加なので皆さんを紹介してもらえませんか」との自主的な言葉が飛出したり、「かつをさんなら安心できるね、と主治医に言ってもらえた」話に職員が涙ぐんだり、泣き笑いの家族会には家族全員が一堂に会しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個人面談にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営会にて検討し職員に戻し返している。基本的には、随時聞く場を設けている。	冠婚葬祭の千円積立やイベント係には事業予算もついているとの例からは、処遇改善への働きかけが視えます。副主任以上の責任者には年2回法人主催の食事があり、法人代表に気兼ねなく意見を伝える機会もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に関して、職員個々が働き易くやりがいのある職場環境となるよう、日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の情報の提供。社内研修に関しては、職員からの要望・課題の情報を収集し、対応方法や技術の習得取り組みを行っている。又、資格習得に向けての支援も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会(交流の場)を年4回実施。 毎テーマ(課題・勉強等)を設定し、サービスの質向上を目指し取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人・ご家族と面談する事で、要望・不安な事・生活歴・生活習慣など聞き取り調査を行う事で、安心し施設生活を始められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人・ご家族と面談する事で、要望・不安な事・生活歴・生活習慣など聞き取り調査を行う事で、安心し施設生活を始められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取り調査面談にて現時点での課題や必要とする支援を見極め、ケアプランを作成し、入居に合わせ職員全員が統一した支援を行えるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分だったら、逆の立場であつたら。」と立場を置き換えて、一人一人の生活や思いを大事し、共に心地よく生活を営めるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、月一度ご利用者さんの状況や状態・モニタリングの結果を報告する際に、現在取り組んでいる事、目標にしている事などをお伝えし、ご家族に共有して頂くことで、より良い支援関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親類の方に限らず、趣味活動で知り合った方や共に活動された方々の訪問、散歩や買い物、集会等への参加外出の支援。馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	宗教や趣味の踊りを続けてもらっています。本人が教会に出向くのは年2回ですが、布教活動をしていた仲間の訪問が途切れなくあり、睡眠前のお祈りも毎晩続き安寧な時間が確保されています。音楽・体操療法の隔週訪問もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分から他者との交流や関係を築けない方には、職員が架け橋となる支援を行っている。 座席についても、気の合った方同士を隣席にしたりと、気を配っている。 入居後、知り合った方々ではありますが、共に支えあって暮らしていく同志であって欲しいと願い支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・他施設へ入所され契約が終了された方であっても、ご家族の了承を得た上で、面会にいかせて頂いたり、又ご家族からの相談をいつでも受けられる関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活会話の中で意向や思いを抽出している。又ははっきりとした意向や希望を伺えない方は、日常生活の様子や行動・会話での表情、発語などを傾聴・考察し把握に努めている。	「私たちのケア方針」の実践としてアセスメントをきめ細やかにこなうなか、生活歴枠のスペースを拡げ会話での安心が得られるよう努めています。「今関心があること」「此处で何をしたらいいか」が瞬時に掴めるモニタリングシートを視認しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に、生活歴や既往歴・健康状態・生活スタイル・好きな物(事)嫌いな物(事)・ご家族やご兄弟との関わり・主治医等々、ご本人、ご家族より伺い把握に努めている。(アセスメント)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態観察(病状、排泄、食事、睡眠、表情、会話、発語、歩行など)、又ご本人の様子観察にて強さ(出来る事)等把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者・主任・計画作成者間において、ご本人からの満足度や意向等を含めたモニタリングを実施し、抱える課題によっては、全職員にてカンファレンス開催し検討した上で、プランを作成又変更している。又、モニタリング説明時にプランに対するご意見を頂き現状に沿ったプラン作成に努めている。	統一ケアのシートは前月とともに当月のものが記載され、個々の職員がプランに沿ったケアをおこなえるよう支える仕組みがあります。利用者が9名と少人数のため、おおむね実践に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録をタイムリーで記入。朝・夕の申し送り時に伝達し情報を共有している。状況や状態に応じては、プラン変更や統一ケア導入(変更)を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に応じた機能訓練強化。 ご家族の状況に応じての、病院受診や身の回り用品の買い物等。状況に応じてた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者さんが暮らしていた地域資源の把握は難しいが、施設がある地域資源の情報を把握し活用に努めている。(公民館まつり・地域の祭りなど)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後最初の受診の際は、同行させて頂き、主治医にご挨拶し、今後の連携方法を相談している。(プランを持参にて) 定期受診は、基本ご家族にお願いをしているが、主治医に相談や指示を仰ぎたい等がある場合においては、事前にご家族に、付き添い・同行をさせて頂きたい旨を説明し了承の上同行させて頂いている。定期受診の際は、看護師が受診メモ(日々のバイタルや日常生活状態等)を作成し、主治医へ状態や日々の様子を文章にて報告し、指示・指導・アドバイスの返信を頂き連携を図っている。 緊急受診やご家族の状況により定期受診の対応が不可能な場合は、管理者が対応させて頂いている。	受診は基本的に家族とし、すべての利用者が在宅の頃からの主治医を継続しています。家族には日頃の様子をまとめた書面を持参してもらい、医師からアドバイスがスムーズにもらえるようコメント欄があります。また、入居時には必ず管理者が医院に向き、挨拶とともに今後の連携について相談しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気づいた事・状態をノートに記入し看護職員に伝達し、看護職員が適宜処置対応を行い、介護職員に指示・指導を行っている。緊急時又は状態に応じて、看護師・管理者から、ご家族へ連絡・相談のち、主治医へ連絡・相談を行い適切対応(緊急受診など)・処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に管理者が面会に行かせて頂き、ご本人が安心して治療を受けられるよう支援を行っている。又その際、担当医師・担当看護師・相談員の方々から状態等の情報収集を行います。 退院見込みの連絡を受けた際は、入院時の経過・退院後の生活上の留意点・状態の管理等指示を頂けるよう、カンファレンスの開催を相談員の方に依頼し、再発防止に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、施設で出来る事・出来ない事(医療行為等)の説明を行っている。重度化・終末期へ状態が進行した場合に於いても、医療行為が無く、施設での生活を継続していただける状態であり、ご本人・ご家族が施設での生活を望まれる場合は、主治医・看護師を中心に十分相談・検討し連携を図り支援に努めている。	家族の気持ちが刻一刻と変化することがあるため、ケースバイケースでの対応とし、特段の方針をもってはいません。それでも救急搬送で入院した利用者の「かつをに戻りたいやあ」との言葉と、「何かあれば行ってあげるよ」との医師の言葉から看取った例もあり、できる限りの支援をしたいという意向をもっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変時・事故発生時の初期対応方法」について、定期的に、座学研修に加えロールプレー訓練・フローチャート図にて手順の確認を行っている。 ※フロアーに「急変・事故対応マニュアル」設置・フローチャート図フロアー掲示		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に訓練を実施している。訓練内容については、発生が予想できない事から毎回想定を変えて実施している。 避難誘導手順については、ご利用者さんの状態に応じ、随時見直し変更を行なっている。 連絡網についても、適宜変更し都度職員へ配布している。 毎月2回防火点検を行っている。設備に関しては警備会社と契約し定期点検を実施している。	法令下の訓練だけに留まらず、ミーティング内での意見交換が定着しています。昨今のは水害対策にもおよび、職員にリスク意識が行き渡っています。緊急時の対応マニュアルでは救急隊員とのやりとりに至るまで示されています。台風や心配な状況があれば、法人代表も泊まり込んでいます。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修会を年1回実施している。年2回「自己評価」を実施し、ご利用者さんへの言葉掛けや対応の仕方などを振り返る機会を設けている。又状況により、管理者・主任が指導を行っている。	尊厳を守るケアについての研修と自己評価がおこなわれています。スピーチロックと尊厳を守るシートは別々に備えられており、力を入れている点であることが受けとめられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝支度の時間、入浴の時間は、気持ちや思いなどを、職員が1対1でゆっくりと思いや希望を伺う場面があり、伺った事・考察出来た事に関して、自己選択・決定ができるような問いかけ支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間など、ご利用者さん一人一人の状態や状況、ペースに合わせている。 起床後の会話等により、その日はどんな気分がなどを察知し、訓練やレクに反映し活気ある一日が過ごせる様な支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については、前夜に翌日の衣類を自ら選択して頂いている。髪型などについても、ご本人の意向に沿うよう美容師の方に伝えている。 毎朝洗面後の整容(ヘアーセット・肌の整え)の支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物を伺い献立に取り入れている。食べ易い食材や食べ易い大きさにカット等の工夫をしている。利用者さんのADLの状態に合わせて、又やりたいと思う気持ちを大事にし、米とぎや食器洗い片付け等日常生活動作を行なう支援に努めている。	個々の食事の進み具合により職員が声掛けにあたっている様子が見られました。車椅子から移譲して、またそれぞれに背もたれのクッションや椅子の座ぶとんの厚さの工夫があり、食事での姿勢を重要視していることが伝わります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量の把握と管理。(水分摂取が苦手方に対しては、1対1にて介助)塩分調整も行っている。又、昼・夕食の献立については、栄養バランスを十分留意した献立作成に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを毎食後、実施している。(モアブラシ、口腔ケアスポンジ・舌ブラシ等にて残渣物除去、粘着性の唾液などの除去)義歯は、必ず義歯ブラシにて洗浄介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン・排泄方法のアセスメントを常に行い、「おむつは最終手段」を目標に取り組んでいる。個々の排泄行為の状態に応じ、支援方法は異なります。一連の行為や動作について、アセスメントを行い、出来ている事は継続支援を行い、出来そうな事については、自立へ向けた支援に努めている。	本人から「紙パンツをやめたい」との要望があれば、家族との話し合いをもって事業所内だけでも布パンツに替えるといった柔軟な対応があります。実際の取組みにおいてもパッドを使ったり外したりと本人本位で進めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズ・定期的な排便がみられるように、個々に応じて、冷たい牛乳やオリゴ糖を毎日定時に飲んで頂いている。又、腸を動かす運動も毎日行っている。排便に関する服用薬については、主治医・看護師からの指示の下服薬管理を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を実施している。入浴方法については、ご本人の意向や身体状態に応じて異なる。職員と1対1で、ゆっくりにのんびりした時間を楽しんで頂いている。皮膚の状態管理を行い、浮腫みのある方は、血流マッサージを実施している。状態状況により、入浴しているので、曜日や時間帯はあまり固定していない。	家庭でよく見かけるユニット浴槽で安心感があります。利用者が入浴好きなこともあり、職員意見を反映して入浴回数が週3回(以前は2回)と増えています。白癬や発疹を発見することが早いので医師にかかるまでに至っていません。100金を上手に利用した目隠しがお洒落です。	利用者本位の温度、湿度のためか蒸し暑く感じました。換気やカビ対策についてあらためて確認されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時、好きな場所(居室・畳・ソファー)で休息して頂いている。個々に合わせ湯たんぽ・エアコンを利用して安眠確保に努めている。 ※主治医から、日中の休息指示を頂い場合は、時間を決め確実な休息を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服用薬の勉強会を実施(追薬・変更薬が合った場合も同様)。用法や用量については、薬表を作成し間違えないよう努め、服用後の変化など経過観察も行っている。 医師より、処方された薬表はファイリングし適宜閲覧できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、ご本人が思っている事・ここでの役割や楽しみ・やりたい事を聞き受け、実現に向けて取り組んでいる。 気分転換への外出についても、利用者さんからの「行って見たい所」などの意向により、出先や目的を決定し実現に向けた支援に努めている。又、お酒・たばこを嗜好されている方への支援も行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出希望が合った場合も、対応している。状況によっては、ご家族の協力も得て実現している。入所前からの定期外出をされていた方も、関係者の方達のご支援のもと継続している。地域の方の協力は得られていない。	恒例となった遠足は念入りに下見をして、職員も共に楽しむことができました。3月の苺狩りは「また、行きたい！」の声を受けて4月に再び出掛けられるほど、利用者の要望に基づく外出支援が展開しています。	日常的な散歩や外気浴の時間設定や機会についてもあらためて検討することを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際はご本人所有のお財布を持参し、購入希望があった場合は、支払いの支援をしている。 管理については、ご家族の要望・トラブルを回避できるよう管理者が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡、「電話したい」「連絡したい」との要望にその場で支援を行っている。手紙に関しても同様にご家族の協力も得て支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔を保ち不快感を招かないよう努めている。明るさ・温度・湿度に気を配っている。聞き易い中間音のテープを流し、壁には、毎月皆で作成した時期候のカレンダーを掲示し、季節を感じ味わっている。今まで作成した作品はフローアに作成し、外出時の写真はフロアや居室に掲示する事で、思い出を辿って会話を楽しんでいる。	拭いたばかりのテーブルからかすかに次亜鉛素系の匂いがするほど、衛生には配慮がありません。毎日の清掃ではトイレは1日2回ほぼ同じ時間におこなっています。天窗には簾が貼られ、戸外に目を向けるとウッドデッキ、和室の空間もあり、そこかしこに暮らしの趣が感じられます。	次亜鉛素系の匂いについては、できればたたないような工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくり椅子に腰かけ過ごされている姿や、気の合った方達で集まって会話をしている姿やソファに座ったり、横になったりされる姿が見られる。一人でゆっくりTVを観たり、読書をされる方は、居室を活用し、その時その時の思いで居場所を変えられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや居室のテーブル・椅子・鏡台など、ご自宅でご本人が愛用されていた物を運び入れてもらっている。居室の壁には、ご家族との思いでの写真なども飾られている。ご家族の協力を頂き、使い慣れた・見慣れた物を運び入れて頂き、少しでも住み慣れた自宅の環境に近づけることができるよう工夫に努めている。	日当たりが強い居室には厚手カーテン、つかまり棒といった職員手作りの個別ケアが充実しています。年2回の居室大掃除では害虫駆除剤をたき、床ワックス、窓硝子磨きがおこなわれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	好きな時に、建物内を独りで移動したり、庭や東屋へ安全に移動できるように、ヒヤリハットの目で環境整備に努めている。車椅子で移動される方についても、見守り・動線の安全確保を行う事で、安全に自立した生活が送れるよう努めている。		